



## 体験学習の重要性

「ゆとり」のなかで「生きる力」を育むことを重視し提言された学校教育の在り方のなかで、「生きる力」の重要な要素の一つとして「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性」があげられた。

入社する、高卒・学卒者の新入社員教育や技術短期大学の技術教育では、将来のスペシャリストを目指し、基礎的な知識・技術を習得させ、時代の進展に適切に対応できる柔軟性のある人材を育成することが求められているが、特に上記の「協調性・思いやる心・感動する心など、豊かな人間性」は、必ず教育されたら身に付くものではないが、さまざまな体験学習を通して「気づき」、それを通して社会の常識・マナーを含めた温かい心など豊かな人間性・人格「づくり」が成し得られるものと確信している。

例えば、学校教育による実験実習・社会見学・現場見学・体験学習・地域産業界との連携・インターンシップや企業内教育による新入社員現場体験・実習・OJT教育など実施されるさまざまな体験学習は、目的・ねらいは違っても、多くの体験を通して個々の理解を深めることは当然のことながら、興味関心・自信・研修意欲・行動力・自己啓発・勇気・信頼・人間関係など計り知れない多くの成果を身に付けることは間違いない。

しかし、これらにかかわる指導者自らが、どのようなものをつかんでもらいたいか、身に付けてもらいたいか、どんな人になってもらいたいかなど、育成のビジョンを持ちそれぞれの目標を的確に指導することと、いつも「教えるという気持ち」を持ち続けることが最大のポイントである。

さて、現場実務の体験学習ではなく、学卒新入社員を対象とした、心の教育「介護ボランティア活動」

(休日実施)を実施したが、未経験からか「どのようにしたらいいのか、何をやればいいのか」いささか不安があったようだ。ケアの方々の指導によって、車椅子の点検・おむつ交換・シーツ交換・コミュニケーション(会話)・食事の配膳・ベッドの清掃・歌・遊び・ゲームなど多くの体験をする機会を得た。

結果は、施設の婦長さんやケアの方々から「積極的で、元気よく、あいさつ・礼儀が正しい。声をかけて話すときに、膝について視線を同じにしている姿や手をつないで話している姿が見られたが、たくさんのボランティア活動で入所者がこんなに喜び、涙を出した姿は見たことがない」など、連携によって、若い人に感動の機会を与えてくださったことに感謝したい。今どきの若者はと批評される世の中、しかし、このように多くの若者は着実に成長していることは事実である。また入所者が手をつかみ、涙を流して見送ってくれた姿が今でも印象に残っているというさまざまな感想文を読んでいるうちに、目頭が熱くなった。このようにできるだけ早い機会に学校教育や企業教育でタイミング良く体験学習を企画・実施し、良い結果に結びつけてほしい。

最後に、多くの研修から得た教育の基本姿勢について述べて締めたい。教えるという気持ちを持つ、熱意と関心を持ち叱ることも大事、率先垂範・良き手本、実体験を通した話、感動の機会を与える、意見や考えを聴く、褒める勇気、信頼に基づく人間関係、自己啓発の重要性など、人づくりに終わりはない。

いとう もとゆき

略歴 1975年 愛知県立高等学校教諭  
1995年 (株)トーエネック入社  
トーエネック技術短期大学校長  
2001年 現在に至る